

「第十二回熊本県医療人育成総合会議」の開催

常任理事(事業担当) 片渕 秀隆

新型コロナウイルスのワクチン接種に関して、予想外の事態がいきなり多数出現しました。例えば、初めて mRNA ワクチンが人間社会に登場し、しかも一気に世界的な規模で使われ、医学医療関係者も詳細を把握する間もなく接種を受けざるを得なかったこと、限られた数のワクチンの社会的な分配において、臨床実習を前にした学生や教職員への接種をどのような順位に位置付けるのが政治的な課題にも上らなかったこと、その実習を前にした学生たちの中に接種を希望しないものが現れてしまったこと、その背景として、出典や正確度を把握することが不可能な「風聞」的な情報がインターネット上を駆け巡ったこと、素早い変異ウイルスの出現が相次ぎ、ワクチンの有効性や必要なブースター接種の回数などがいまだに確定できないことなどが挙げられると思われます。

その上、感染状況の推移次第では、コロナ感染症専門病院の指定やそれに伴う実習予定病院の機能の一时的なシフトや、更には地域医療崩壊がおきた際の学生実習の扱いさえも考えておかなければならない事態に迫り込まれるかもしれませんでした。

そこで今年度の医療人育成総合会議では、mRNA ワクチンに関する内容も含めて、臨床実習とワクチン接種に関する喫緊の課題について議論しました。実行委員・片渕秀隆(委員長)、石塚

洋一、尾池雄一、河野文夫、池田洋一郎、須加原一博、門岡康弘、古川 昇、松下修三、山本哲郎、竹屋元裕、馬場秀夫、橋本伸朗、中村公俊、押海裕之、松本智晴
事務局・吉本昭彦、三浦敬三、松村若菜

協力・高橋酒造株式会社、一般財団法人化学及血清療法研究所

後援・熊本日日新聞社

実行委員会では会議の内容の詳細を立案。「第十二回熊本県医療人育成総合会議」の実施概要は次のとおりです。

実施概要

テーマ「パンデミック下の病院実習とワクチン接種」

日時 令和三年十一月二十三日(月)

祝) 開場 午後一時、開演 午後一時三十分

場所 熊本大学医学部キャンパス

会場 熊本大学医学総合研究棟三階講習室

司会 熊本大学大学院生命科学研究部

部 教授 尾池雄一氏

熊本大学大学院生命科学研究部 教授 門岡康弘氏

講演①「医学教育における新型コロナウイルス

ワクチン接種の現状」
講師 熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター 准教授 古川 昇氏

講演②「mRNA ワクチンの機序と新型コロナウイルスの展望」
講師 熊本大学大学院生命科学研究部免疫学講座 教授 押海裕之氏

講演③「熊本病院における臨床実習とワクチン接種」
講師 熊本大学病院 病院長 馬場秀夫氏

講演④「医療系大学における学生へのワクチン接種とその課題」
講師 熊本保健科学大学 学長 竹屋元裕氏

講演⑤「市中病院における臨床実習受け入れとワクチン接種の現状」
講師 独立行政法人国立病院機構熊本医療センター 副院長 橋本伸朗氏

講演⑥「ウィズコロナ、ポストコロナ時代の医学教育」
講師 一般社団法人日本医学教育評価機構 常勤理事 奈良信雄氏

(総合討論)
司会 熊本大学大学院生命科学研究部 教授 尾池雄一氏

熊本大学大学院生命科学研究部 教授 門岡康弘氏

パネリスト 講演講師 六名

終 了 午後五時

参加人数 約一〇〇名

講演並びに総合討論において活発な意見交換が交わされました。

その後十二月二十三日に熊本日日新聞紙面に講演の内容を報告しました。



第12回熊本県医療人育成総合会議